

第18回 腹証奇覧・奇覧翼を読む

苓桂朮甘湯他

四 診 § 切 診

峯 尚志

今回学ぶ処方

(○は文礼の●は叔虎の解説)

○●苓桂朮甘湯

●苓桂甘棗湯

●苓姜朮甘湯

●茯苓甘草湯

●茯苓戎塩湯

○磁石丸

温化利水剤

温化利水剤とは陽虚水滯した病態に
温陽の乾姜、附子、桂皮、呉茱萸や
利湿の白朮、茯苓、大腹皮、木瓜などを配合して
水を温めて化す方剤

苓桂朮甘湯

茯苓6、桂枝4、白朮3、甘草2

苓桂朮甘湯

組成：茯苓12、桂枝9、白朮9、炙甘草6

効能：温化水飲、健脾利湿

主治：水飲、脾陽不足

病機：脾陽虚のため、水飲が停滞する。

心下部似停滞すると心下や胸脇部が張り肺にたまと、息切れ、咳嗽が生じ心に及ぶと動悸

清陽の上昇を妨げるとふらつき、めまいが現れる

舌苔が白滑、脈弦滑は水飲、舌質は脾陽虚のため淡で胖のことが多い

主薬は健脾利水の茯苓



○苓桂朮甘湯（文礼）

図の如く

心下に毒ありて悸し上衝し

起きれば即ち頭眩し、

小便不利、或いは心煩

或いは鬱々として

志気安からざるもの、この証なり

何病を問わず、心下悸し、小便不利を

準拠として此の方を持ちうべし。

また苓姜朮甘湯は臍下悸して身体重く、腰冷え

水中に座するが如し。

また苓桂甘棗湯は、心下及び臍下に悸ありて

攣急上衝するものなり。



苓桂朮甘湯圖

呼吸の短きものを苓桂朮甘湯の証とす

苓桂朮甘湯は心脾だけでなく脾を軸に心腎を巡らす

苓桂朮甘湯は脾を補うと同時に心の陽気を助け縦方向の気血水の流れを調節する

桂枝湯は芍薬が入り縦横全方向、苓桂朮甘湯はもっぱら縦方向に作用する

苓桂朮甘湯を二味の薬徴から理解する



茯苓と白朮

茯苓

性味：甘、淡、平

帰経：心、脾、胃、肺、腎

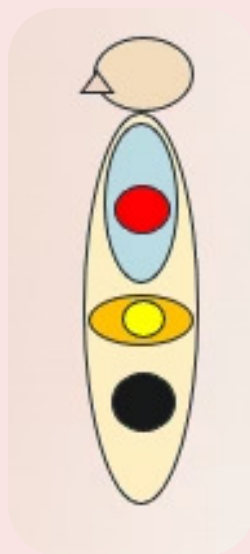
薬性分類：利水滲湿薬

薬能：

利水滲湿

健脾補中

寧心安神



白朮

甘、苦、温

脾、胃

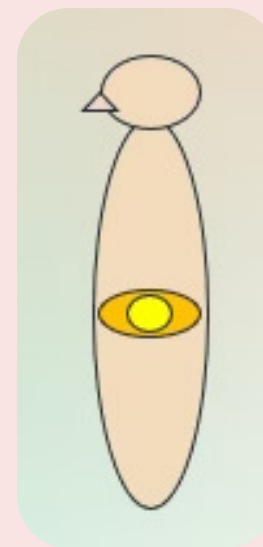
補気薬

健脾益気

燥湿利水

固表止汗

安胎



桂枝と桂皮

桂枝（枝）

性味：辛、甘、温

帰経：肺、心、脾、

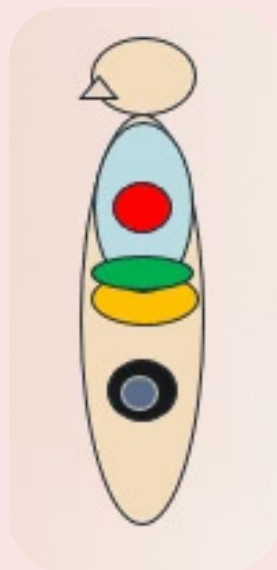
肝、腎、膀胱

薬能：

発汗解肌

温経通脈

平衡降逆



桂皮（幹）

性味：辛、甘、大熱

帰経：肝、腎、心、

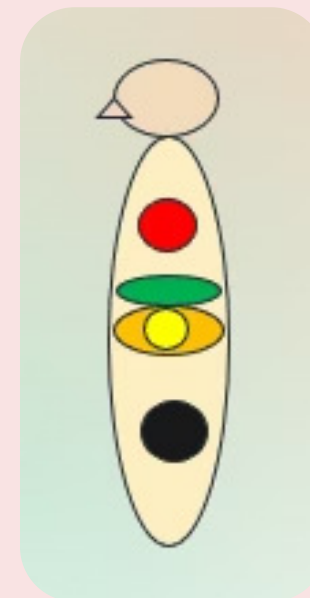
脾、胃

薬能：

温中補陽

散寒止痛

温通経脈



白朮と蒼朮

白朮

性味：甘、苦、温

帰経：脾、胃

薬性分類：補気薬

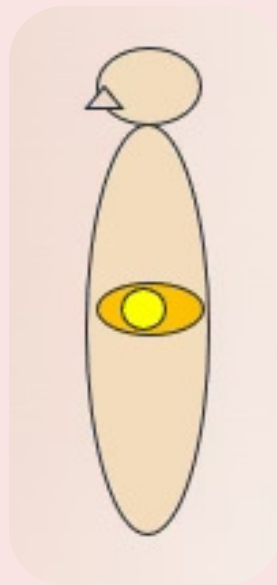
薬能：

健脾益気

燥湿利水

固表止汗

安胎



蒼朮

性味：辛、苦、温

帰経：脾、胃

薬性分類：祛風燥湿薬

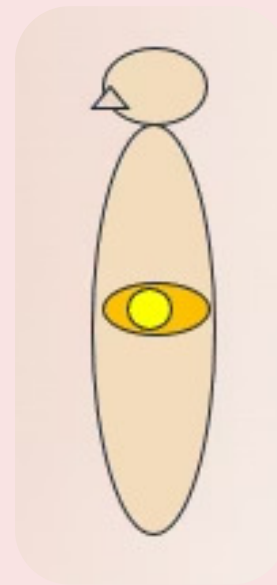
薬能：

祛風除湿

燥湿健脾

散寒解表

除障明目



甘草と大棗

甘草

性味：甘、平

帰経：十二経

薬性分類：補気薬

薬能：

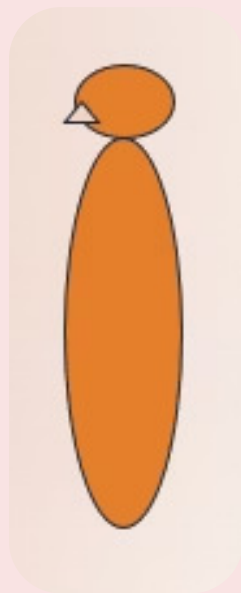
補中益気

潤肺祛痰止咳

緩急止痛

清熱解毒

薬性調和



大棗

性味：甘、微温

帰経：脾、胃、心、肝

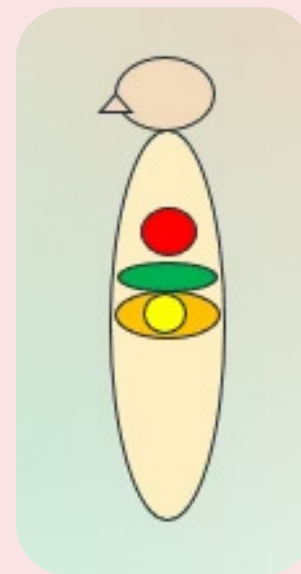
薬性分類：補気薬

薬能：

補脾和胃

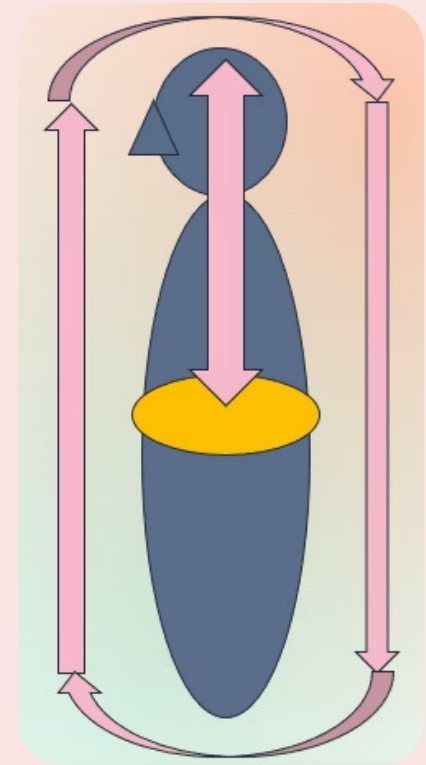
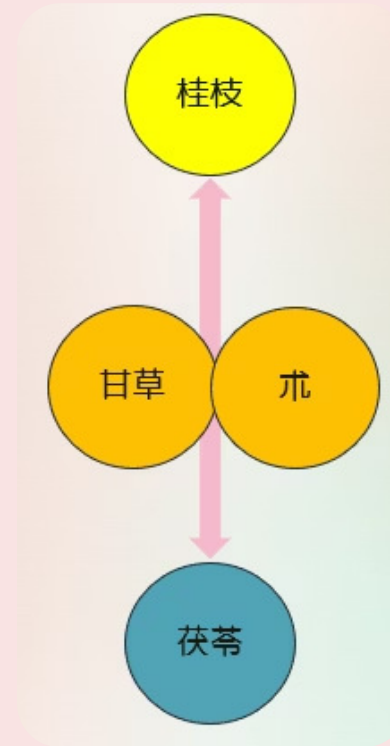
養宮安神

緩和薬性



●苓桂朮甘湯

甘草、朮、茯苓で脾気を補い
 停滞した水をさばいて
 さらに桂枝で温陽利水して
 茯苓で縦方向の水をめぐらす
 さらに桂枝は引火帰原の作用を持ち、腎陽を鼓舞して
 茯苓とともに腎の水を巡らし心腎を相交させる



脾陽虚、腎陽虚による水飲

苓桂朮甘湯はどちらにも使える



温陽

「痰飲を病むは、まさに温薬をもってこれを和すべし。」



脾陽を鼓舞

「心下に痰飲有り、胸脇支満し目弦するは、苓桂朮甘湯之れを主る。」



腎陽を鼓舞

「それ短気し微飲あるは、まさに小便より之れを去るべし、苓桂朮甘湯之れを主り、腎気丸またこれを主る。」

苓桂朮甘湯の合方

単独でも使えるが合方で更に応用が広がる

- 加味逍遙散合苓桂朮甘湯
- 柴胡桂枝乾姜湯合苓桂朮甘湯
- 半夏白朮天麻湯合苓桂朮甘湯
- 半夏瀉心湯合苓桂朮甘湯
- 四物湯合苓桂朮甘湯（連珠飲）
- 当帰芍薬散合苓桂朮甘湯（めのかすみ、当帰、川芎）

たとえば

冷えと動悸めまいを訴える13才の女子

月経周期はまだ安定せず、当帰芍薬散を処方するが、胃にもたれる。

苓桂朮甘湯を合方することで、もたれることなく服用できて、手足が温くなり、動悸、めまいもよくなった。

朝起きれないフクロウ症候群に苓桂朮甘湯

フクロウ症候群

「ふくろう症候群」とは起立性調節障害（OD：Orthostatic Dysregulation）の別名で、思春期初期に認められる自律神経失調症である。症状は朝、起きるのがつらく寝坊しがち、起きた後もボーっとしてスッキリしない、食欲がなく朝食は食べないもしくは食べたくないが頑張って食べる、学校や仕事に行っても午前中は元気がなく、午後にやっと活気が出る、早く床に就いても目がさえて眠れない等で、夜間は元気である。随伴症状として、頭痛、めまい、疲れやすさ、立ちくらみ、顔色が青白い等がある。

フクロウ症候群の病態

下肢の血液プーリングに伴う静脈還流量の低下・心拍出量低下・心拍数増加・細動脈緊張低下により、脳血流の低下が起こると推測されている。朝起きられない、立ちくらみ、めまい、頭痛等の症状は水滯が示唆され、水分代謝を調節する苓桂朮甘湯が有効である場合があり、起立性低血圧や早朝起床困難には速効性があるといわれている。

眼精疲労、その他の応用

動悸、めまい、起立性調節障害に苓桂朮甘湯

眼筋の調節障害に苓桂朮甘湯

眼精疲労、仮性近視、飛蚊症、白内障、黄斑変性症

蒼朮に明目作用（枸杞子、菊花もあるけれど）

その他：胃もたれ、嘔気、蓄膿症、難聴

次の処方

苓桂朮甘湯の朮がなくなり大棗が加わる

茯苓桂枝甘草大棗湯

茯苓、桂枝、甘草、大棗

白朮がない代わりに茯苓が倍になり、大棗が加わっている

●苓桂甘棗湯の腹証

図の如く

臍下に於いて

ダクダク、ビクビクと動くものあり

やがてムクムクとして

心下にさしむものは、所謂

奔豚の気なり

この証、水気を挟みて上衝す。

故に臍下悸して奔豚の気を発するなり



● 苓桂甘棗湯

壇中の周辺から心下、臍下部に及ぶ領域に疼痛、圧迫感、苦悶感、違和感など様々に訴えられる異常感覚のあるもので動悸と、短気を伴う。

発作性に症状が憎悪する傾向があるもの

● 苓桂甘棗湯『金匱要略』

「汗を発して後、その人臍下悸する者は、奔豚をなさんと欲す。茯苓桂枝甘草大棗湯これを主る。」

発汗により体表の水分が欠乏し、表の陽気が虚し、裏の気が動いて下焦の水が動揺し、臍下の悸と上衝を発し、胸中につまるごとく、あるいは下腹に激しい痛みを起こし、あるいは嘔吐をおこす等のものに用いる

本方は主として心臓神経症、神経性心悸亢進症に用いる。

奔豚は総腸骨動脈の拍動亢進で臍下より動悸が発作的に突き上げ、心下に至る交感神経緊張症で、心下部や下腹部に激しい痛みを生じたり、胸中つまるとく覚え、あるいは嘔吐、頭痛などをおこすものに用いる。

大棗

基原：クロウメモドキ科のナツメの果実

性味：甘、微温

帰経：脾、胃、心、肝

薬能：補脾和胃、養営安神、緩和薬性

成分：多くの糖類と多量のcyclicAMPを有する

薬理：血圧降下作用、鎮静作用、抗潰瘍作用、抗アレルギー作用

苓桂朮甘湯の白朮を除いて大棗をあわせるところがミソ

大棗には各種糖質の他に自然界における植物の中で
際立って高濃度のcyclicAMPを含有する

大棗の補陰作用が自律神経を安定させる

- cyclicAMPはホルモンの細胞内におけるセカンドメッセンジャーとして生物界に広く存在する。神経細胞においてサイクリックAMPは、分化、生存、極性形成、突起伸長、軸索ガイダンス、軸索再生、シナプス伝達、シナプス可塑性、ホルモン分泌など多種多彩な過程に関与する。
- cyclicAMPという基礎的栄養物質の補給（補陰）が自律神経を安定させる。

大棗は攣急強急を治す

- 「大棗は、攣急強急するを主治す。傍ら咳嗽、奔豚、脇痛、腹中痛むを治す」『薬徴；吉益東洞』
- 「大棗は拘攣に似て細く琴の糸の如くリンと引きつるもの攣急強急なり」『長沙腹診考；奥田鳳作』
- 「腹底に沈んで軟弱な触感がある攣急である」『皇漢医学；湯本求真』

この攣急は自律神経の緊張による内臓体癖反射によると考えられる

攣急強急の触診法

腹診で手刀を側腹部からやさしく垂直に下ろしてから正中に移動すると弦のような細い筋に触れて、痛みを訴える場合が多い。

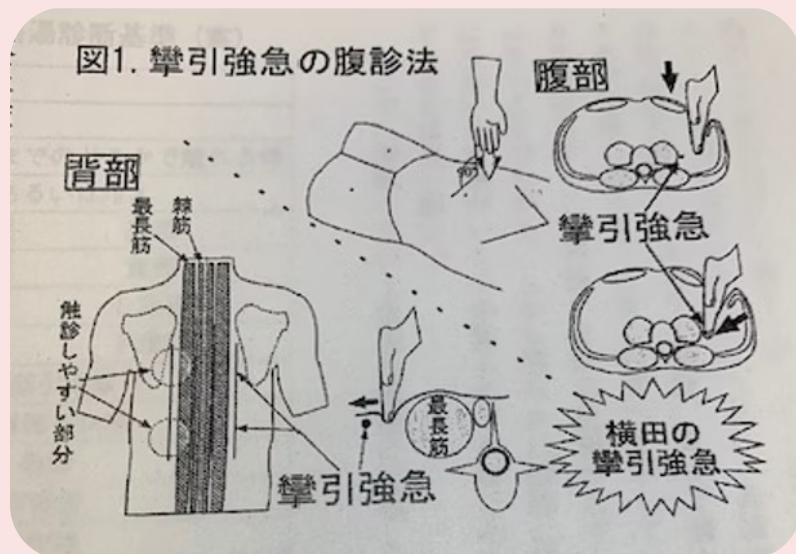
張りはギターの弦よりはゆるくベースギターの弦の張りに近い。

背部の最長筋の外側に細いスジを触れ弾くと強い痛みを訴える。

参考文献：新たな苓桂甘棗湯証の診断基準の検討

羽生総合病院和漢診療センター 高木 恒太郎

漢方の臨床 第58巻第8号、2011



パニック障害への応用

パニック障害、発作性頻拍症に対してエキス剤での苓桂甘棗湯の代用として苓桂朮甘湯合甘麦大棗湯を使用している。

パニック障害の患者さんに問診をすると、今まで身体の不調を感じたことがほとんどなく、それが突然、自制不能な動悸、めまい、脱汗、息苦しさなどの自立神経発作におそわれることにより、大きな不安と恐怖に襲われ、それがトラウマとなっていることがわかる。もともと身体が弱く、病上手の死にベタといった患者さんとは対局である。

普段強いからこそ症状に弱いというムンテラ

普段丈夫だからこそ、パニックになったのだというムンテラと同時に、柴胡加竜骨牡蛎湯、苓桂朮甘湯、甘麦大棗湯を処方し、少し落ち着きがみられたら甘麦大棗湯、あるいは甘麦大棗湯合苓桂朮甘湯を頓用で飲むように指導することが多い

次の処方
苓桂朮甘湯の桂枝が乾姜に置き換わる

苓姜朮甘湯

茯苓 6、乾姜 3、白朮 3、甘草 2

桂枝がないので、もっぱらお腹から下を温め利水する



苓姜朮甘湯

図の如く、腰以下病ありて
冷ゆること水中に座するが如く
重くして痛み、甚だしきものは
腰痛して反張（そりかえる）するに至る
小便自利するものを
苓姜朮甘湯の証とす
甘草乾姜で肺脾腎を温めて
白朮、茯苓で利水する。



苓姜朮甘湯

- 主治：寒湿定着肌肉（腎著の病）
- 治法：温中除湿
- 症候：腰や下肢が冷えてだるく重く痛い
- 病機：寒湿が肌肉に停滞した状態
湿邪は重く下に溜まるので下半身にたまる
- 条文：「**腎著の病はその人身体重く、腰中冷え、水中に座するがごとく、形は水状のごとく、かえって渴せず、小便は自利し、飲食故のごときは、病は下焦に属す。心勞し汗出で、衣裏は冷湿し、久久にしてこれを得る。腰以下冷痛し、腰重きこと五千錢を帯びたるがごとし、甘姜苓朮湯これを主る**」

生姜と乾姜

乾姜は肺を温めることで腎陽も温める

生姜

性味：辛、微温

成分：gingerol

帰経：肺、脾、胃

分類：辛温解表薬

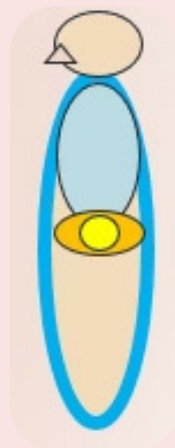
薬能：

散寒解表

祛痰止咳

温胃止嘔

化痰行水



乾姜

性味：大辛、大熱

成分：shogaol

帰経：心、肺、脾、胃

分類：散寒薬

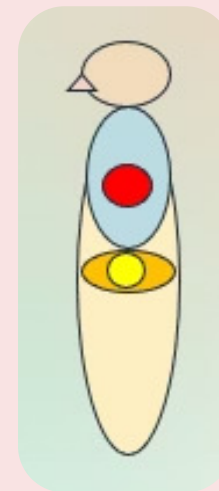
薬能：

温中散寒

温中回陽

回陽通脈

温肺化痰、化飲



苓姜朮甘湯

甘草 乾姜

溫裏

白朮 茯苓

補脾利水





苓姜朮甘湯の臨床応用

整形外科疾患

- 腰痛（水滯、冷えにより悪化）
- 座骨神経痛

泌尿器科疾患

- 薄い尿が多量に出る
- 頻尿（老人の膀胱神経症）
- 尿失禁

婦人科疾患

- 水っぽい帯下過多



甘草乾姜をベースとした方剤

甘草乾姜湯（裏寒、陽虚）

人参湯（水滞なし）

苓姜朮甘湯（陽虚水滞+）

苓甘姜味辛夏仁湯（陽虚水滞+）

小青竜湯（陽虚水滞+）

次の処方苓桂朮甘湯の朮がなくなり
生姜が加わる

茯苓甘草湯

茯苓末 6、桂皮末 4、生姜末 2、甘草末 2 の割合で
茶さじ 1、2 杯を温湯に溶かして服用
桂枝甘草湯加茯苓、生姜

エキスなら苓桂朮甘湯に小半夏加茯苓

茯苓甘草湯

桂枝

生姜

茯苓

甘草

本方は風邪などで発汗剤服用後、汗が止まらなくなり、手足が冷えて、心悸亢進や、胸内苦悶、尿不利を訴える者に極めて速効を呈する。脱汗には必要不可欠な薬方である

多汗症

「傷寒、汗出でで渴する者は五苓散之れを主る、渴せざる者は茯苓甘草湯之れを主る。」（胃にまだ水がある）

発汗、脱汗、動悸、尿不利、嘔気、難産後の心不全、のぼせ

「傷寒、厥而して心下悸する者は、宜しく先ず水を治すべし、当に茯苓甘草湯を服すべし。かえって其の厥を治す。しかせざれば水、胃中に漬み入り、必ず利を作すなり」

厥は四肢厥逆なり、厥逆して心下悸するものは、是れ水の上逆して心下にせまるの候とす。先ず、この方に、水を治し、後にその厥を治すべしと

※要するに『手足が冷えて、動悸するものは、手足の冷えより先に、水滯を治すべきであるので、茯苓甘草を与えるのがよい。』という意味。

茯苓戎塩湯

茯苓 朮 戎塩（岩塩）

茯苓戎塩湯は、小便淋瀝して通じがたく若しくは小便閉のものを治す。
渴して塩みを好むもの、此の方を用いて妙とす

心下悸し、小便不利するものを治す

まず茯苓朮を煎じ、塩を入れ再煎し、分温三服す

磁石丸

磁石、大黄（各十二箋）、浮石、桃仁（各六箋）
右、末となし、小豆の大きさの如く丸くす

図の如く

手足羸瘦して腹脹満、所謂鼓脹、
顔面蒼白のもの

証にしたがいて本剤を与え、
毎夜此の丸、或いは二箋、或いは三箋
若しくは小児は五分
毒の浅深厚薄に随って薬の分量多少、
謹んで考うべし。



定心丸證
磁石丸之證

磁石

基原：天然鉄鉱石

薬性分類：重鎮安神薬

性味：辛、鹹、寒

薬能：重鎮安神、定驚、鎮肝潜陽、納気平喘

腎虚の耳鳴り、肝陽上亢のめまい、腎不納気の喘鳴、心神不安のおびえ、動悸、不眠に用いる。

鉱物薬のうち、磁石は純粋で性質が穏やかなので、毒性、副作用は少なく、長期服用してもたいした障害はない、、、？

磁石丸証は？

磁石は腎陰虚陽亢による耳鳴、動悸、めまい、不安に用いる生薬で、文礼の磁石丸においては、手足羸瘦しという表現は、陰虚による痩せを思わせ、腹満鼓脹は、悪性疾患による腹水などを連想させるが、大黄、桃仁は駆瘀血薬はあるが逐水薬はなく、方意がわからない。

そもそも此の方は、永田徳本十九方中の名方とあるが、この本自体が偽書であることが後に判明しているようであり、方の真偽もますます分らない。

福田先生の資料より

磁石丸

磁石丸（じせきがん・索引じしゃくがん）

・甲斐の徳本翁十九方中の名方

磁石丸の方

磁石二錢、浮石（軽石）、滑石各三錢、大黄四錢。右四味、末丸となし、毎夜一錢五分、あるいは二錢を臼湯をもって送下す。かつ黄疸病および五疸（**黄疸**、穀疸、酒疸、女勞疸、黒疸）を治する方法は徳本翁の伝一にして止まず

磁石、大黄各十二錢、軽石、桃仁各六錢。右末となし、小豆の大きさのごとく丸す。毎夜一錢、あるいは一錢半を、臼湯をもって送下す。右徳本家の薬品分量と少しくたがえり、効多し

参考：紫雪丹

組成：石膏、寒水石、滑石、磁石、犀角、羚羊角、木香、沈香、玄参、升麻、炙甘草、丁香、朴硝、硝石、麝香、朱砂、黄芩

薬能：清熱開竅、鎮瘧熄風

主治：熱邪内陷心包、動風

小兒熱盛動風（熱性瘧攣）

熱邪が心包に内陷して神明を攪乱するもので、意識障害、煩燥、うわごと、引きつり、瘧攣するもの

参考：磁朱丸

組成：磁石、朱砂、神麴

効能：老人性白内障による視力の改善

老人性白内障には半年以上服用してはじめて効果がある。

まとめ

- 苓桂朮甘湯は動悸、めまいを治すだけでなく、自律神経の調節作用がある。
- 時には、仮性近視など目の調節障害や、鼻水や蓄膿にも効果を発揮する場合がある。
- 中医学的には温化利水薬に属し、心下部に溜まった水（飲）を温めて、取り除き、巡らす作用がある。
- 私は苓桂朮甘は上焦だけでなく腎にも作用し、心、肺、脾、腎の縦方向の水の流れを円滑にする作用があると考えている。
- 他剤との相性もよく、合方することで長期に症状を安定させる役割も果たす。
- 苓桂甘棗湯は、大棗の栄養作用と緩和作用で動悸のパニック発作を治す。総腸骨動脈の動悸の触診が目標となる。
- 苓姜朮甘湯は、裏寒を治す甘草乾姜に茯苓、朮を加えた処方で、裏寒による陽虚水滞による、腰の重い冷え痛みを治す。
- 茯苓は脾胃のみに作用する朮と違って、脾胃の他に、心、肺、腎にも作用し、身体全体の水液代謝を改善する要薬である。
- 体内の水液代謝は、脾を中心に心、肺、脾、腎の相互作用がとりわけ重要で、苓桂朮甘湯はこの四臓の働きを調和する名方といえる。